

中部営農センター  
伊藤 和成

訪問日:2月27日

## たまねぎの栽培について



まとまった雨が降り、気温が上がってきたので、土屋政子さんの畑へ出向き、たまねぎの生育を確認しました。

土屋さんは、日進グリーンセンターや学校給食へ精力的に出荷しています。

この時期にたまねぎ栽培で注意すべき2点について、確認・指導を行いました。

### べと病の症状

#### ① 追肥のタイミング

たまねぎ栽培は、追肥のタイミングがとても重要です。

収穫時に肥料を吸収し過ぎていると腐りやすくなるため、2月末までに追肥を終わらせ、3月以降は行わないのが基本です。

#### ② べと病の確認

べと病は、前年にべと病にかかった葉などとともに土壌で生き残っている胞子が原因で発生する病害です。胞子は**10年以上の上土の中で生存**することもあります。

秋頃に雨や泥はね等で感染し、春に気温が上がり湿度も高い状態が続くと、感染した株の葉などから胞子が飛び、感染がさらに広がります。

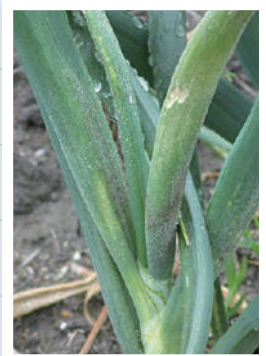
感染すると葉が枯れて光合成を阻害され、玉の太りが悪くなり収量に大きく影響します。



秋頃:光沢のなくなった葉が横に垂れる株が現れます



春先:葉に楕円形の跡ができます



感染が進行すると、暗紫色の症状が出ます

### べと病対策

#### ダコニール1000®

- 希釈倍数:1000倍
- 使用量:100~300L/10a
- 使用時期:収穫7日前まで
- 使用回数:6回以内

#### プロポーズ顆粒水和剤

- 希釈倍数:1000倍
- 使用量:100~300L/10a
- 使用時期:収穫7日前まで
- 使用回数:3回以内

### 対策

- 被害株の徹底的な除去
- 農薬での定期的な防除
- 雨が続く場合は、予防的にダコニール1000®を使用
- 葉に白色のかびが発生した場合は、プロポーズ顆粒水和剤を使用

土屋さんの圃場は、べと病の感染は見られませんでした。今後の雨と気温の上昇に注意しつつ、高品質なたまねぎ出荷を目指して引き続き定期的に訪問していきます。

※画像は「農業電子図書館」より引用